

標茶町二ツ山から採れた稀少蛾類資料と キボシミスジトガリバの北海道における産地

飯 島 一 雄

Sphingidae スズメガ科

1) *Macroglossum pyrrhosticta* Butler ホシホウジャク〔飯島No.1099〕(Fig. 1)

標茶町五十石: 1♂, 1975. ix. 16 (K. Ijima) 釧路地方未記録

根室市厚床: 1♀, 1965. viii. 25 (S. Kitasumi) 根室地方未記録

本種は北海道東部か北部では稀少なもので、これまでに上士幌町糠平産の1♀(1962. viii. 11 H. Ono) が記録されていたもので(飯島 1963)、ここに2新産地をあげた。

五十石産の♂は駅舎内に止まっていたもので、道東部ではこうした比較的暖地性のスズメガが、これまでも若干採れているが、定着しているものか、それとも温暖地から飛来したものか明らかでないが、疑いを持たれるのは次の5種である。

ホシホウジャク、コスズメ、イブキスズメ、ヒメスズメ、ホウジャク。

Noctuidae ヤガ科

2.) *Cerastis rubricosa* Denis et Schiffermüller ネムロウスモンヤガ〔No.1100〕(Fig. 2)

標茶町二ツ山: 1♂, 1976. iv. 26; 1♂, 同. v. 27 (K. Ijima) 釧路地方未記録。

本種は根室市厚床から初めて発見され(杉、飯島 1967)、上掲の和名を与えたが、1960年頃という釧路平野部の顕著な特徴を持った蛾類はほとんど出尽した頃であって、当時厚床に在住した伊藤政和氏から持ち込まれた未知のモンヤガには、まったくの驚きであった。

本種は杉繁郎氏の調査でヨーロッパにすでに知られていたもので、極東地域からは未発見であるがヨーロッパ〜シベリア亜区的好寒種に属するものである。

本種の第2の産地がどこから名乗り出るか興味の深いところであったが、十勝西南部で精力的な調査を続けていた小木広行氏が豊頃町湧洞(7♂♂ 1♀, 1974. v. 9-20) 忠類村中当(1♀, 1972. iv. 30 H. Kogi) から発見(小木 1974) し、道東部に繁栄している好寒性のグループに属することが立証された。

ところが、この記録を「だめ押し」するかのように、標茶町二ツ山の定点誘蛾燈にまったく突然飛来したのである。飛来時刻は正確ではないが、午後10時の点検、次が午前1時30分、この間に飛来したもので、この時すでに壁面に静止していたもので、気温の低下でこのあと飛来する蛾は1頭も見られなかった。当夜飛来したものは次の4科15種81頭であった。(夜間採集のひと晩の飛来数としては最少)

ハマキガ科 2種2頭、**シャクガ科**: フタマタフユエダシャク18♂♂、ホソバフユシャク6♂♂ 3♀♀ (この雌は歩いて来たもの)、シモフリトゲエダシャク2♂♂、オカモトトゲエダシャク1♂、**トガリバガ科**: ミスジトガリバ5♂♂、タマヌキトガリバ25♂♂、**ヤガ科**: イチゴキリガ2♂♂、ウスミミモンキリガ1♂ 2♀♀、ホソバキリガ5♂♂、ミヤマオビキリガ5♂♂ 1♀、テンスジキリガ1♂、ハイイロモンキリガ1♂、ネムロウスモンヤガ1♂。

4月26日の雄が採れてから1ヵ月後、5月27日に再び1♂が飛来したが、釧路川流域には未発見の棲息地が二ツ山以外にもあることが十分考えられるようになった。

3) *Parallelia maturata* Walker ムラサキアシブトクチバ [No.1101] (Fig. 3)

標茶町二ツ山: 1♂, 1976. vi. 25 (K. Ijima) 二ツ山未記録。

本種は元釧路市立郷土博物館長の片岡新助氏所蔵標本から発見し、この♂標本にはラベルがなかったが、ご本人が釧路市(鳥取)か阿寒湖畔のどちらかで採れたとのことで、当時(昭和38年)北海道未記録種として記録した(飯島1959)。この後、奥尻島で発見されたただけである(前波1967)。今回標茶町二ツ山から採れた♂は長年月採集を続けている定点誘蛾燈に飛来したもので、ネムロウスモンに次ぐ1976年産の快挙である。

4) *Lygephila recta* Bremer キタヒメクビグロクチバ

二ツ山: 1♀, 1963. ix. 10 (K. Ijima) 杉所蔵

Lygephila 属は、釧路地方にクビグロクチバ、ウスクビグロクチバ、エゾクビグロクチバ(北海道特産)、飯島No.1051(北海道特産)の4種が知られていて、No.1051は日本から未発見種であることが最近判明し、ハイイロクビグロクチバと命名され、もう1種日本から未発見種がウスクビグロクチバの中に混同されていて、これが表記のキタヒメクビグロクチバと命名されたのである。国内では2種とも北海道の特産地で、標茶町二ツ山以外の産地はキタヒメが十勝管内新得町屈足、新内、御影町、浦幌町、国外ではアムールに分布する。

ハイイロクビグロは豊頃町大川、国外ではアムール～ヨーロッパにかけて分布していることが明らかになった(杉 1976)。

ハイイロクビグロクチバの新産地として、次のデーターをあげる。

札幌市宮の森: 1♂, 1965. viii. 15 (M. Isikawa)

この標本は山根正気氏から同定を求められたものである。

Notodontidae シャチホコガ科

5) *Cnethodonta grisescens* Staudinger シロシャチホコ

二ツ山: 1♂, 1967. vii. 20 (K. Ijima)

釧路地方から採れた唯一のもので、これは二ツ山の定点誘蛾燈に飛来した。これまでに糠平から知られていた。

6) *Mimodonta albicosta* Matsumura マエジロシャチホコ

五十石駅: 1♂, 1966. vii. 8 (K. Ijima)

本種も道東部では少ないもので、これまでの産地は糠平と、標茶町では茅沼駅に飛来した1♂(1959. vi. 30)だけだった。二ツ山ではまだ未発見だが距離的には茅沼に2 km、五十石に3 km つまり両駅の間が二ツ山である。

Lymantriidea ドクガ科

7) *Pida nipponis* Butler クロモンドクガ (Fig. 4)

二ツ山: 1♀, 1976. vii. 17 (K. Ijima)

本種は1956年7月28日二ツ山産の雌、これが道東部唯一の記録であったが、上掲の雌は調度20年目に同じ定点誘蛾燈に飛来したものである。

Drepanidae カギバガ科

8) *Callicilix abraxata* Butler マダラカギバ (Fig. 5)

ニツ山: 1♀, 1976. vii. 16 (K. Ijima)

北海道東部には少ないもので、これまでの産地は糠平と標茶町ニツ山産の1♀が記録されていた(飯島 1975)。この雌は1974年7月27日定点誘蛾燈に飛来したもので、1年置いて再び同地点の電燈に上掲の雌が飛来したものである。幼虫はミズキを食べる(中島 1971)。この食樹は、標茶町ニツ山付近では大変少ないもので、ミズキの多い地区での夜間採集を行なったら意外と好棲息地が見つかるかも知れない。

Bombycidae カイコガ科

9) *Oberthüreria falcigera* Butler オオクワゴモドキ (Fig. 6)

道東部は少ないもので、これまでの記録は、標茶町開運橋(1♂, 1963. vii. 25 K. Ijima)、帯広市(1♂, 1953. vii. 25 H. Ono)、糠平(1♂, 1961. vii. 24)などである。

ニツ山の定点誘蛾燈には1973年6月15日(飯島1975)にはじめて1♂が飛来したが、その後はまったく採れない。

Geometridae シャクガ科

10) *Scopula nivearia* Leech シロヒメシャク

ニツ山: 1♂, 1958. vii. 27; 同: 1♂, 1956. viii. 5; 同: 1♀, 1956. viii. 5 (K. Ijima) 井上所蔵。

本種は最近上掲の種であることが判明したもので、今のところ国内では標茶町ニツ山だけから知られている(井上 1976)。国外では、朝鮮(済州島)から知られていた。本州に棲むキナミシロヒメシャクに似るというが、顔面の白くないことで区別できる。

11) *Myrteta angelica* Butler クロミスジシロエダシャク (Fig. 7)

ニツ山: 1♂, 1976. viii. 28 (K. Ijima)

本種を北海道から初めて記録したのは標茶町ニツ山産の雌1956年9月10日(飯島 1957)で、2頭目が10年経過した1966年9月14日の雌。この年から更に10年経過した1976年に上掲の雄が採れたが、いずれも同じ定点誘蛾燈に飛来したものである。ニツ山から発見後、札幌市や函館からも記録された。

日高管内竜門ダムの水銀灯に、採集し切れない数の本種を見たが(1975. ix. 1、7♂♂ 7♀♀)、日高山脈を越えて北上しつつあるこの蛾が、この30年の間、少しも増えられないのは食草上の問題かと考える。

本種の幼虫はエゴノキ、ハクウンボクを食べることが知られているが(佐藤 1976)、この食草は釧路地方には自生していない。

キボシミスジトガリバの北海道における産地

Achlja longipennis Inoue キボシミスジトガリバ

根室市厚床: 1♂, 1970. v. 2 (M. Itô)

本種はミスジトガリバ *A. flavicornis jezoensis* Matsu. の異常型と考えられていたが、最近新種として命名された(井上 1972)。タイプの産地は群馬県赤城山産で、山梨県清里、日光湯元(岩田 1965)、岐阜県御岳(遠藤 1976)などからも知られている。

北海道からは正しく同定された記録がないが、上掲の♂はまぎれもないキボシミスジトガリバである。

長年調査を継続している標茶からは未発見であるが、糠平産の♂を見た記憶があるし、東大雪生物相(蝶蛾編 1967)の写真Ⅱ-9 ミスジトガリバとある♂は、白紋の消えかけたキボシミスジトガリバの可能性が強い。

サカハチトガリバの新産地

Kurama mirabilis Butler サカハチトガリバ

標茶町雷別: 1♂, 1973. v. 6 (K. Ijima)

北海道からは標茶町ニツ山から発見(飯島1958)したが、それは1957年の2♂♂ 1♀(カシワから幼虫を発見。ミズナラも食べた)、1964年の1♂などで、その後まったく採れなかった。雷別は道内で2番目の産地といえる。

以上、本報文に用いた標本で所在の明記ないものは、すべて釧路市立郷土博物館に所蔵する。

キボシミスジを恵与下さった伊藤政和氏、写真は橋本正雄氏の労作によるもので、両氏に心からお礼申し上げます。

引 用 文 献

- 1) 飯島一雄 1963: 北海道東部の蛾類目録(I) 蛾類通信 No.33, 237.
- 2) 飯島一雄 1966: 北海道東部の蛾類目録(III) 同類通信 No.44, 428.
- 3) 飯島一雄 1957: 北海道釧路の蛾類について(III) 蛾類通信 No.11, 80.
- 4) 飯島一雄 1958: 北海道釧路の蛾類について(IV) 蛾類通信 No.14-15, 124.
- 5) 飯島一雄 1959: ムラサキアシブトクチバの発見。Coenonympha No.9, 157.
- 6) 飯島一雄 1975: 釧路湿原と周辺地の昆虫類。釧路湿原総合調査報告書。195.
- 7) 杉・飯島 1967: 根室から発見されたネムロウスモンヤガ(新称)について。Coenonympha No.20, 381-382
- 8) 杉 繁郎 1976: 日本未記録の *Lygephila* 二種の追加。誘蛾燈 No.63, 3.
- 9) 井上 寛 1972: 日本産トガリバガ科の2新種の記載。Entomological Academy Vol. 6, No. 2, 29-35
- 10) 岩田一彦 1965: 清里(山梨県)産の注目すべき蛾。蛾類通信。No.40, 361.
- 11) 小木広行 1974: 北海道十勝西、南部のヤガII。Coenonympha No.30, 576.
- 12) 佐藤力夫 1976: シャクガ科幼虫覚え書(xxvi)誘蛾燈。No.65, 94.
- 13) 中島秀雄 1971: カギバ科幼期生態覚え書。蛾類通信No.64, 58.
- 14) 遠藤弘志 1976: キボシミスジトガリバの新産地。蛾類通信No.86, 426.

標茶町二ツ山から採れた稀少蛾類資料とキボシミスジトガリバの北海道における産地

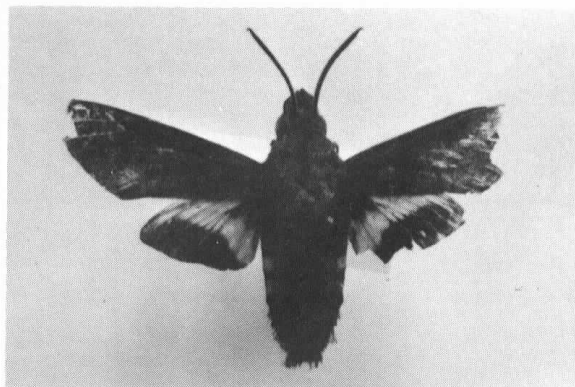


Fig. 1 *Macroglossum pyrrhosticta* Butler
ホシホウジャク♂

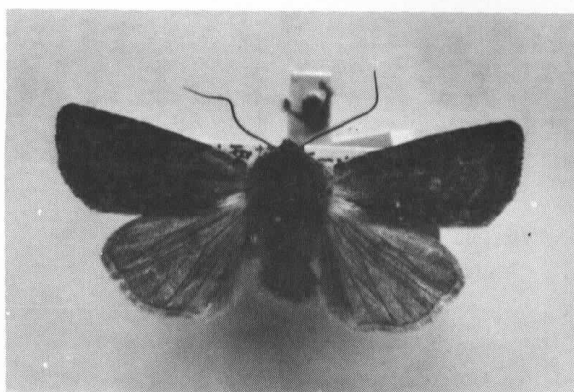


Fig. 2 *Cerastis rubricosa* Denis et Schiffermüller
ネムロウスモンヤガ♂

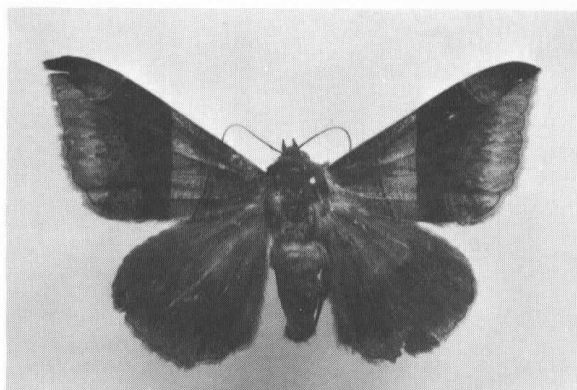


Fig. 3 *Parallelia maturata* Walker
ムラサキアシブトクチャバ♂

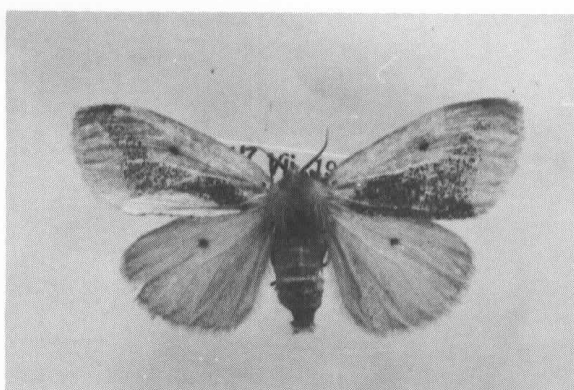


Fig. 4 *Pida niphonis* Butler
クロモンドクガ♀

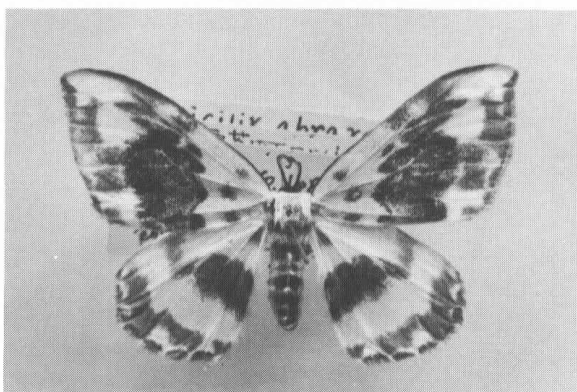


Fig. 5 *Callicilix abraxata* Butler
マダラカギバ♀

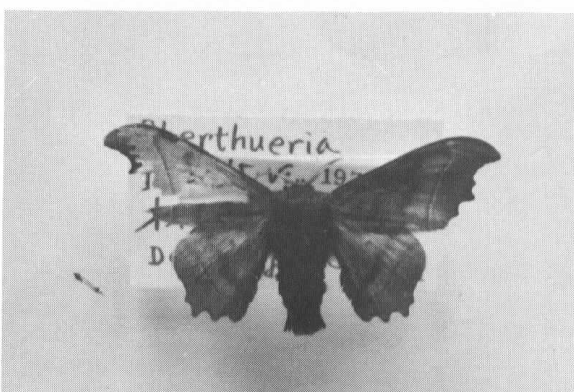


Fig. 6 *Oberthueria falcigera* Butler
オオクワゴモドキ♂

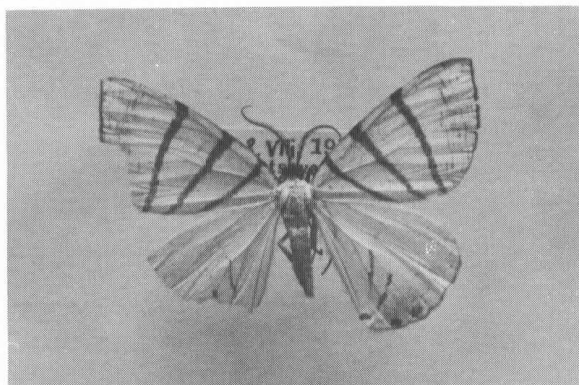


Fig. 7 *Myrteta angelica* Butler
クロミスジシロエダシャク ♂

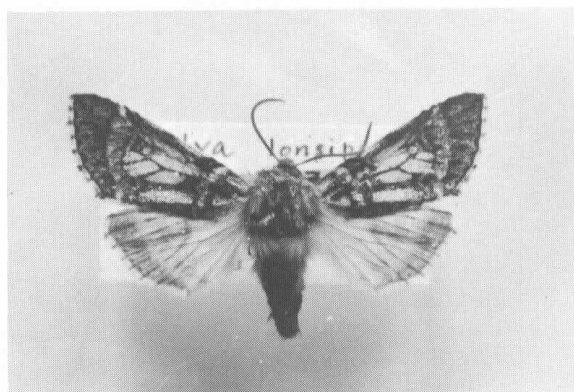


Fig. 8 *Achiya longipennis* Inoue
キボシミスジトガリバ ♂

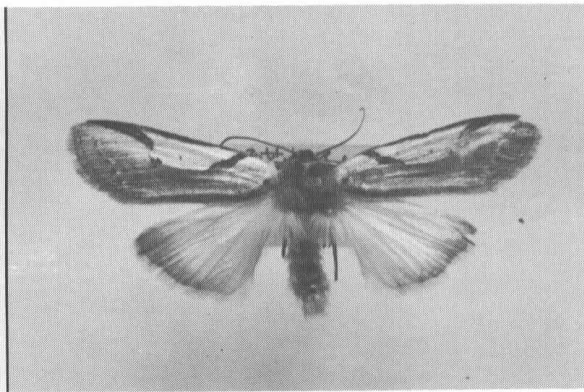


Fig. 9 *Kurama mirabilis* Butler
サカハチトガリバ ♂